

第 10 期野洲市高齢者福祉計画・介護保険
事業計画策定の進捗について

アンケート調査の概要

計画策定の基礎資料とするため、市内在住の高齢者に対して、以下の調査を行いました。

【各調査の概要】

| | 介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 | 在宅介護実態調査 |
|--------------|---|---|
| 対象 | 65歳以上の自立高齢者（無作為抽出）と 要支援認定者（悉皆） | 市内居住し、在宅で生活している要介護 （要支援）認定者（抽出調査） |
| 方法 | <ul style="list-style-type: none"> ● 郵送による配布、郵送・Web フォームによる回収 | <ul style="list-style-type: none"> ● 郵送による配布、郵送・Web フォームによる回収 ● 認定調査員による聞き取り調査 |
| 調査期間 | 令和7年11月6日～令和8年1月15日 | 令和7年11月6日～実施中 |
| 目的 ・活用 | <ul style="list-style-type: none"> ● 要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定。 ● 総合事業の評価に活用。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 要介護認定者や主な介護者の状況を把握し、要介護認定者の在宅生活の継続の可否や、介護者の就労継続の可否に有効なサービス利用のあり方、サービス整備の方向性を整理。 |
| 設問 | 以下の3種類の設問から設問を作成。 ①国の示す必須項目、②国の示すオプション項目、③市独自項目 | |
| 配布数 | 2,300件 | 700件 |
| 有効回収数 | 1,690件 | 481件(1/15 現在) |
| 有効回収率 | 73.5% | — |
| 【参考】 前回調査 | 令和5年1月中旬～2月3日 | 令和4年9月下旬～令和5年3月上旬 |

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の主要項目結果

(1) 要介護状態になる各リスク判定

国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の手引き等を踏まえ、要介護状態になる各リスクについて以下のように整理しています。

| リスク等 | 判定項目 |
|----------|---|
| 運動器の機能低下 | 以下の5項目のうち3項目以上で該当する選択肢を回答した場合リスク有 <input type="radio"/> 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか <input type="radio"/> 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか <input type="radio"/> 15分くらい続けて歩いていますか <input type="radio"/> 過去1年間に転んだ経験がありますか <input type="radio"/> 転倒に対する不安は大きいですか |
| 転倒 | 「過去1年間に転んだ経験がありますか」という設問で、「1. 何度もある」「2. 1度ある」を選択している場合リスク有 |
| 閉じこもり | 「週に1回以上は外出していますか」という設問で、「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」を選択している場合リスク有 |
| 低栄養 | BMIが18.5以下で、「6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか」に「1. はい」を選択している場合リスク有 |
| 口腔機能 | 以下の3項目のうち2項目以上に該当する場合リスク有 <input type="radio"/> 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか <input type="radio"/> お茶や汁物等でむせることがありますか <input type="radio"/> 口の渇きが気になりますか |
| うつ傾向 | 以下の2項目のうち、1項目でも該当する場合リスク有 <input type="radio"/> この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか <input type="radio"/> この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがありましたか |
| 認知機能の低下 | 「物忘れが多いと感じますか」という設問で、「1. はい」を選択している場合リスク有 |
| IADL※ | 以下の5項目で「できるし、している」または「できるけどしていない」を1点とし、合計値が3点以下であればリスク有り <input type="radio"/> バスや電車を使って1人で外出していますか <input type="radio"/> 自分で食品・日用品の買物をしていますか <input type="radio"/> 自分で食事の用意をしていますか <input type="radio"/> 自分で請求書の支払いをしていますか <input type="radio"/> 自分で預貯金の出し入れをしていますか |

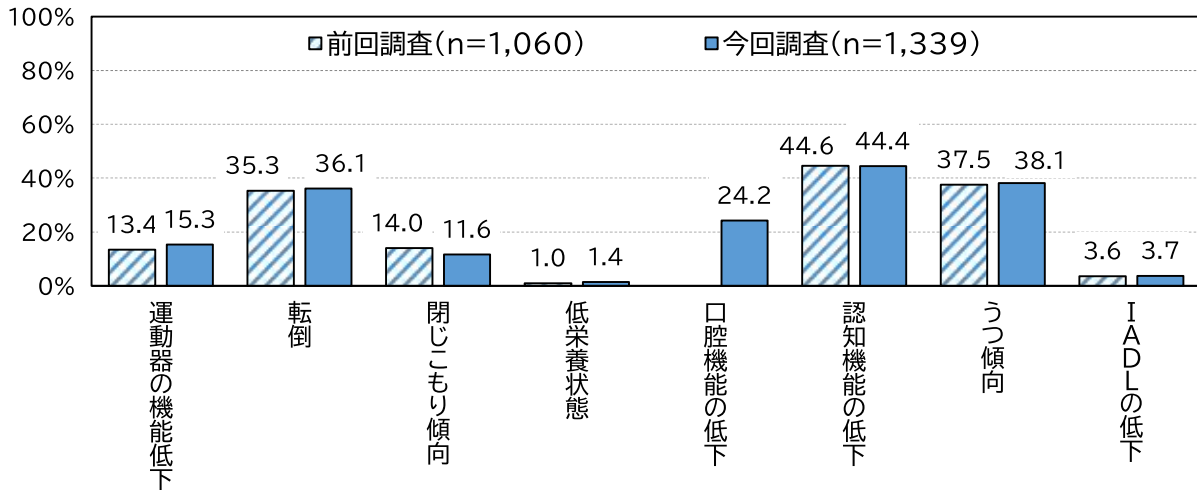
※買物、洗濯、電話、薬の管理など活動的な日常生活を送るための動作のことを、「手段的日常生活動作 (Instrument Activity of Daily Living: IADL)」といい、その自立度から、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができます。

○要介護状態になる各リスクについて、自立高齢者は「認知機能の低下」が最も多く、「うつ傾向」、「転倒」が続いています。

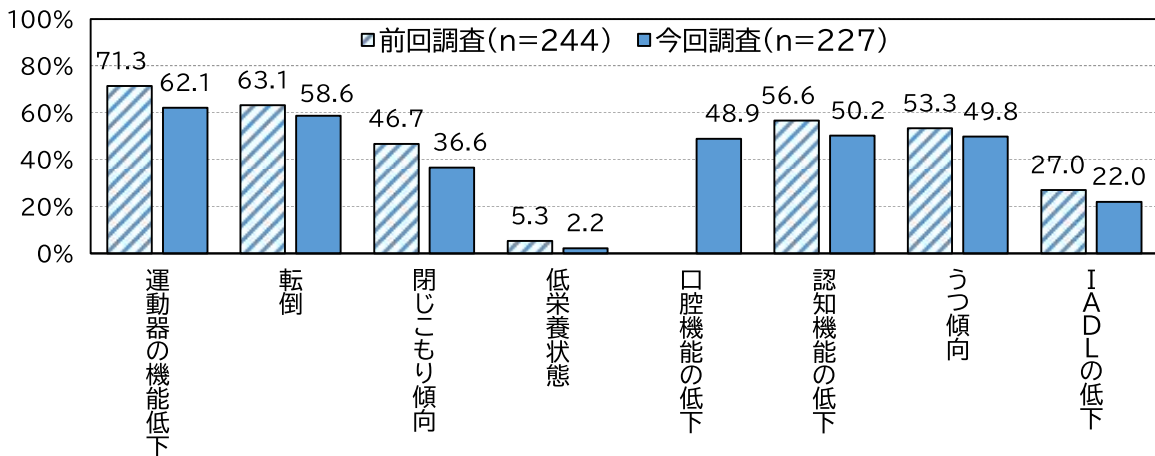
○要支援1は、「運動器の機能低下」が最も多く、「転倒」、「認知機能の低下」が続いています。

○要支援2は、「運動器の機能低下」が最も多く、「転倒」、「うつ傾向」が続いています。

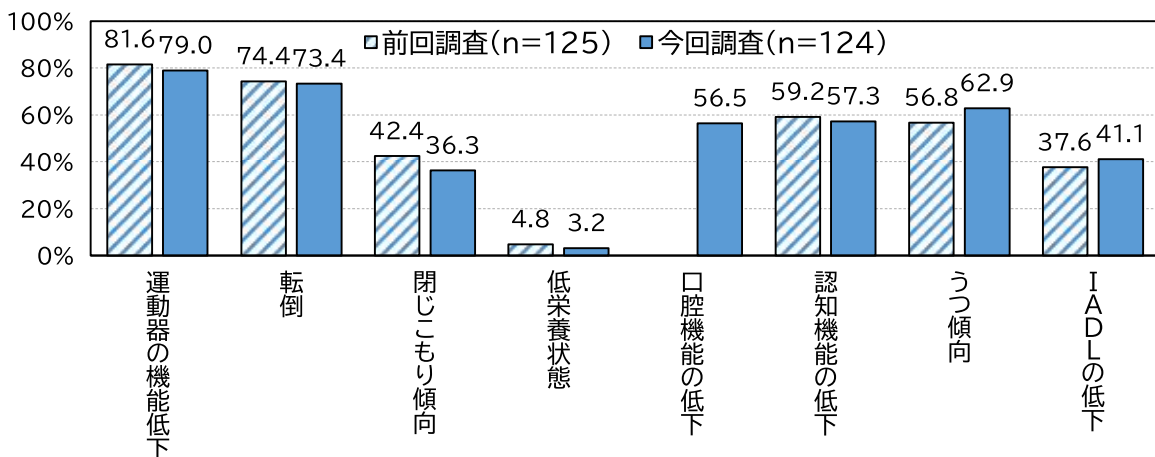
【リスク判定（自立高齢者）】



【リスク判定（要支援1）】



【リスク判定（要支援2）】

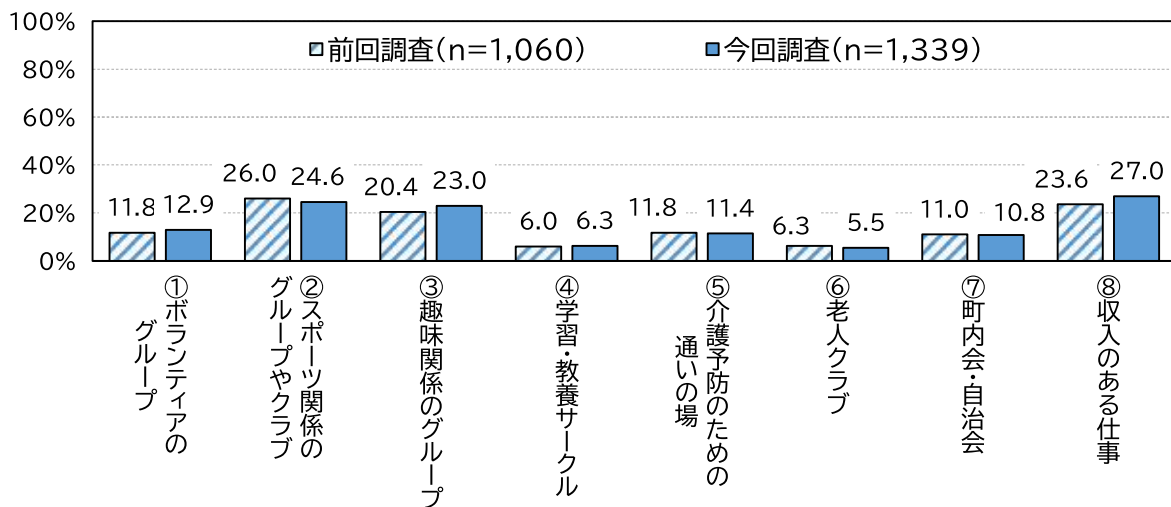


※「口腔機能の低下」は、前回データは欠損

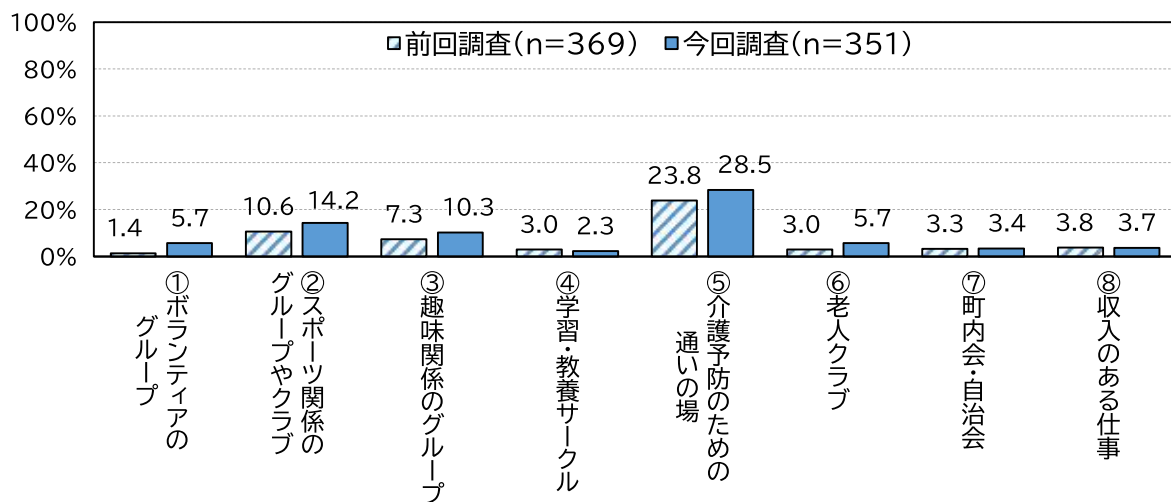
(2) 地域活動への参加状況

- 月に1回以上参加している割合は、自立高齢者は「⑧収入のある仕事」が最も多く、「②スポーツ関係のグループやクラブ」、「③趣味関係のグループ」が続いています。
- 要支援認定者は「⑤介護予防のための通いの場」が最も多く、「②スポーツ関係のグループやクラブ」、「③趣味関係のグループ」が続いています。
- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「②スポーツ関係のグループやクラブ」の月1回以上参加の割合が減少しています。要支援認定者は「①ボランティアのグループ」の月1回以上参加の割合が増加しています。

【社会参加<月1回以上> (自立高齢者)】



【社会参加<月1回以上> (要支援認定者)】

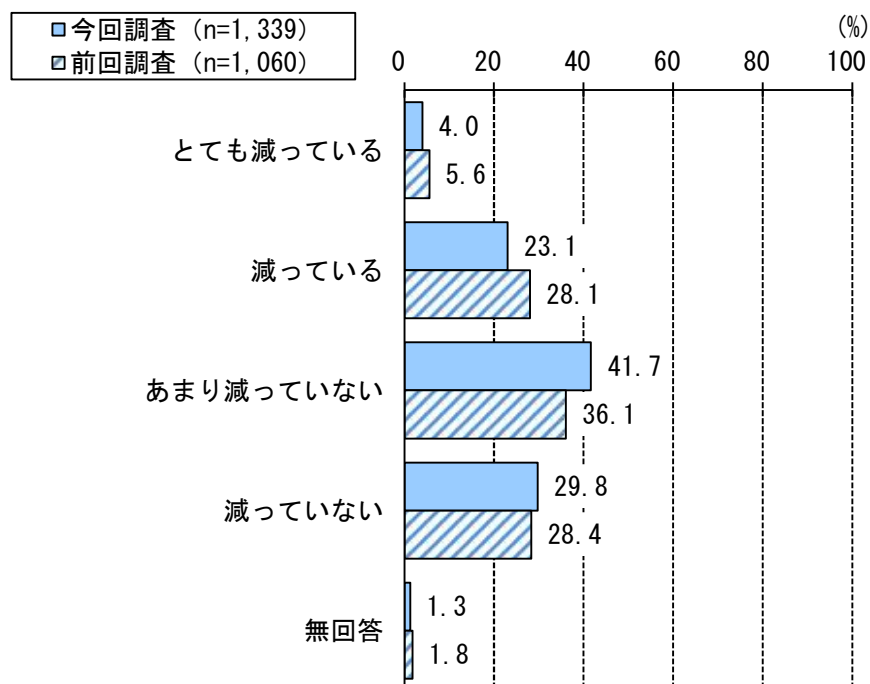


2. 前回調査からの経年比較からみた主な結果

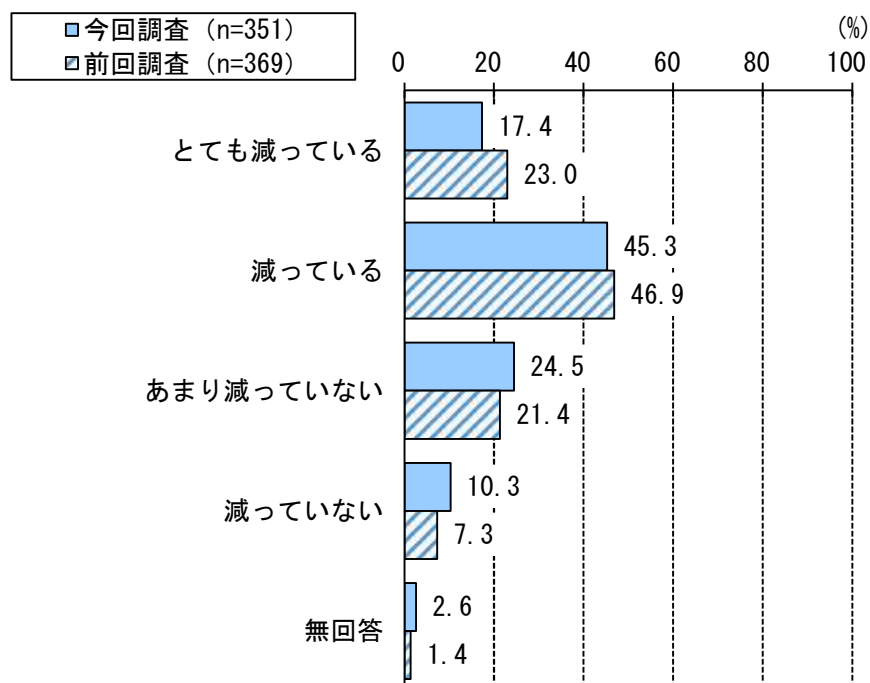
(1) 昨年と比べた外出回数の減少

○自立高齢者について、今回調査は、前回調査より「減っている」が減少、「あまり減っていない」が増加しています。

【昨年と比べた外出回数の減少（自立高齢者）】



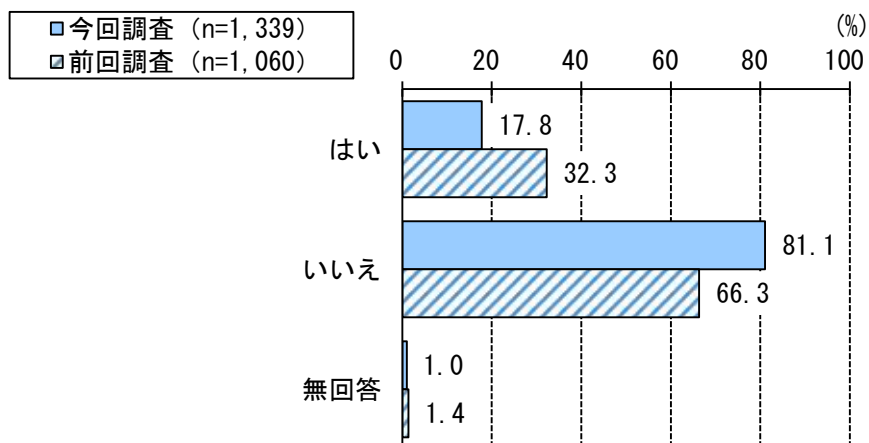
【昨年と比べた外出回数の減少（要支援認定者）】



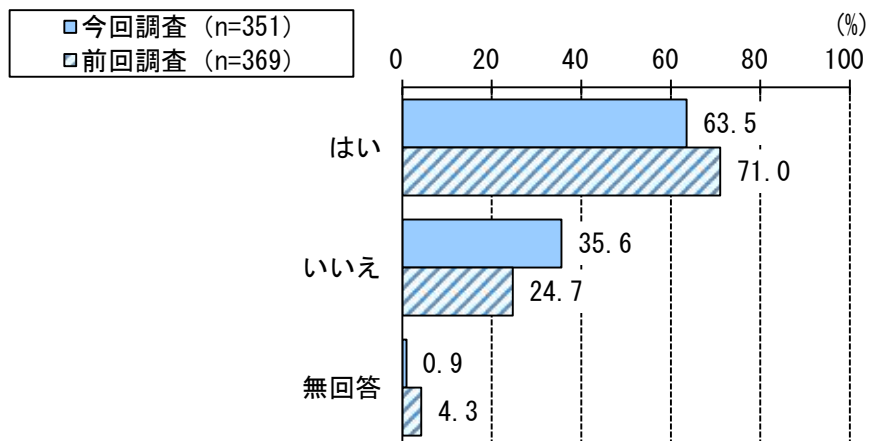
(2) 外出控え

○自立高齢者・要支援認定者ともに、今回調査は、前回調査より「はい」が減少、「いいえ」が増加しています。

【外出控え（自立高齢者）】



【外出控え（要支援認定者）】

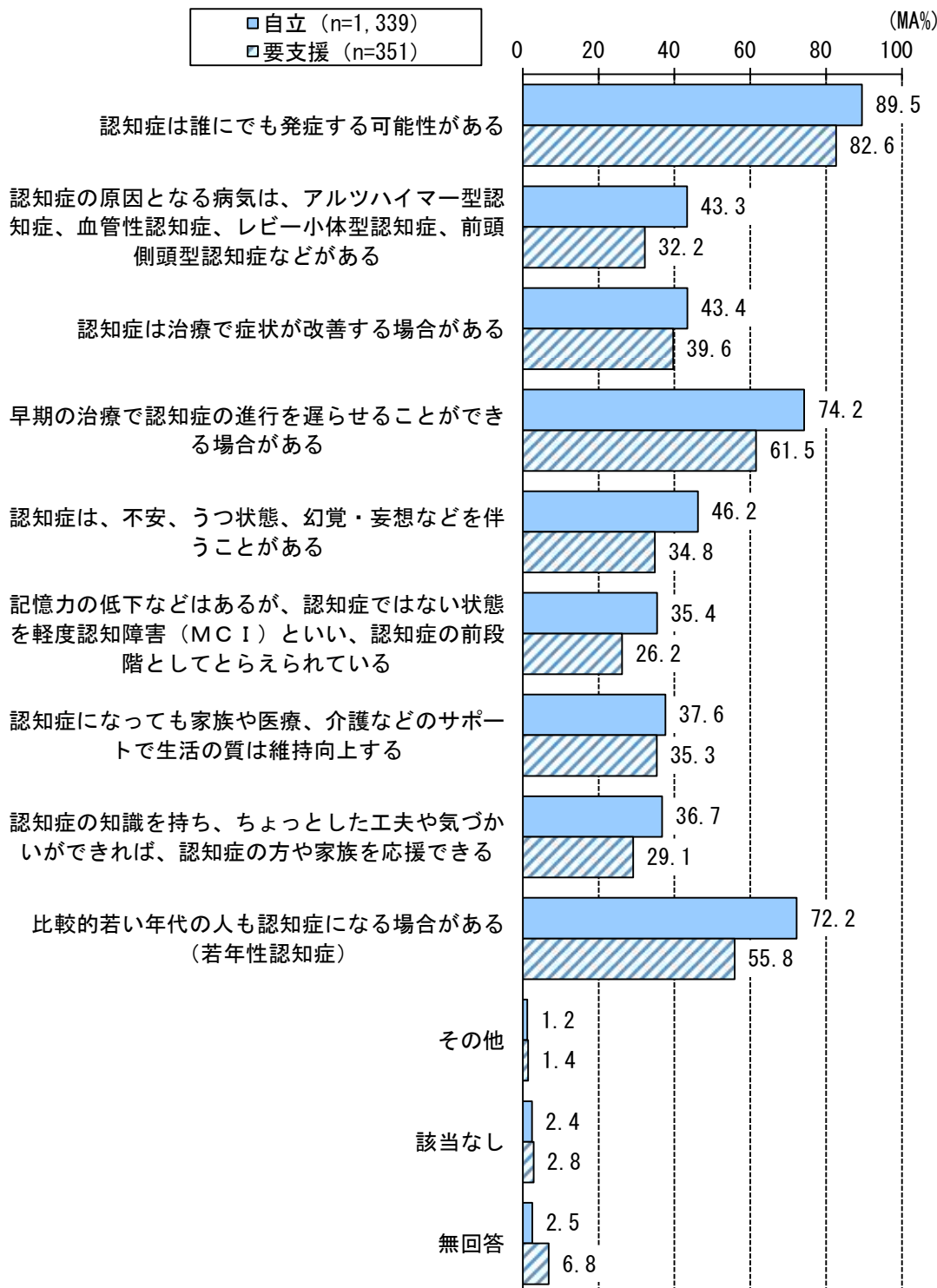


3. 今回調査からの新規項目の主な結果

(1) 認知症について知っていること

○自立高齢者・要支援認定者ともに、「認知症は誰にでも発症する可能性がある」が最も多く、次いで「早期の治療で認知症の進行を遅らせることができる場合がある」、「比較的若い年代の人も認知症になる場合がある（若年性認知症）」となっています。

【認知症について知っていること】



(2) 近所に認知症の方がいたら、どのように接するか

- 自立高齢者は、「何か困っている様子があったら声をかける」が最も多く、次いで「どのように接して良いかわからない」、「会ったら自分から声をかける、話しかける」となっています。
- 要支援認定者は、「どのように接して良いかわからない」が最も多く、次いで「会ったら自分から声をかける、話しかける」、「何か困っている様子があったら声をかける」となっています。
- 自立高齢者・要支援認定者ともに、3割程度の方が「どのように接して良いかわからない」と回答しています。

【近所に認知症の方がいたら、どのように接するか】

